

ことばというものはあるようでないようなもの、存在しながらしてないような、何か透明になってしまっているような感じがする。日常のことば遣いだと「かっぱ」と「かっぱらう」は私たちの頭の中の全然違う所にしまい込まれていて、相互に連想するなどということもない。しかし二つ並べると、語形が互いによく似ている、そうすると語の意味も似ているのではないかと考えたくなる。経験が先行してそれを言葉で表すことと、ことばが新しい経験を生み出すこと。これは「伝達」と「創造」ということでとられることもできるし、あるいはことばの「実用的」な働きと、ことばの「美的」な働きと言われることもある。

私は、私的な言葉を大切にすべきだと思う。

その理由は第一に、実用的な言葉ばかりではつまらないからだ。学校の授業でもただ事実を伝えるだけでは面白くない私の学校の鳥居先生は、社会の担当をしているのだが教科書どおりにすすめていて豆知識などがないため話が入ってこない。しかし、理科の丹田先生は光の屈折の授業で